

「西野小学の棒踊り・福祭文伝承活動の取組」

1 学校名

南種子町立西野小学校

2 学年・人数

全校児童 24 人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成 29 年 9 月～10 月 西野小学校体育館・・・棒踊り

平成 29 年 9 月～11 月 西野小学校体育館・・・福祭文

(2) 発表の日時・場所

平成 29 年 9 月 17 日 西野小学校校庭（運動会）

平成 29 年 11 月 8 日 南種子中学校体育館（町小中学校音楽発表会）

平成 29 年 11 月 12 日 西野小学校体育館（西野フェスティバル）

平成 30 年 1 月 7 日 西之地区の各集落（福祭文）

平成 30 年 1 月 26 日 町福祉センター（種子島民謡伝承活動発表会）

※ 平成 29 年秋の神社への奉納（鉄砲伝来の地、門倉岬の御崎神社）は、台風接近のためできなかつたので西野フェスティバルでの披露となった。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

「棒踊り」（ぼうおどり）

「福祭文」（くさいもん）

(2) 由来

・「棒踊り」は、明治時代に薩摩半島南部から伝わったもの。

・「福祭文」は、中世末に種子島の殿様が京都に滞在し、諸芸を仕入れたという記録があり、京都の「祭文語り」が起源ではとの説がある。

(3) 構成等

棒踊りは、秋の収穫祭である願成就（西之地区では、御崎神社大祭）で、他の民俗芸能とともに奉納されるものである。六尺棒を持った 4 人と鎌を持った 2 人の計 6 人が一組でリズムカルに踊る。旧西野中学校が踊りを受け継いでいたが、中学校の統合を機に、西野小学校児童が伝承活動を始めた。

「福祭文」は、正月七日に大人と一緒に各家々、神社、お寺や学校等を訪れ、門口から福祭文を歌い、その家の一年の幸福と繁栄を祈る。

5 保存会や地域との連携の具体

「棒踊り」の練習は、教育課程の年間計画に取り入れ、地域の方々に指導をいただきながら練習を行っている。棒踊りの唄も以前はテープであったが、一昨年から地域の方の協力で生唄となった。踊りの衣装も地域の方と保護者で「着付け教室」を開き、奉納踊りに臨んでいる。

「福祭文」は、地区老人会の方に歌の指導をいただきながら練習を行っている。正月七日には、集落ごとに大人と一緒に家々を歌いながら回る。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

棒踊りの披露にあたっては、地域の方々との繋がりを大切にし、皆で守り続けていこうという思いで伝承活動に励んでいる。また、ただ踊りを伝承するだけではなく、その由来や歴史的背景についても学習している。運動会では、昨年度から中学生や大人も参加して踊ってもらうようにした。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



平成 28 年度御崎神社大祭



西野小学校秋季大運動会披露



唄い手とともに練習



種子島民謡伝承活動発表会

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

ぼくは、踊りをしっかり覚えているので、下の学年に教えるときは、ちゃんと教えないといけないと思ってがんばっています。踊りの奉納のときは、神様に気持ちが伝わるようにという思いで踊りました（児童）。

少子化が進んでいる昨今、子供たちが伝統を継承していくことが大切であると思う。その地の伝統や文化を学ぶことは、子供たちにとっては、地域の一員だという自覚を芽生えさせるよい機会である。また、高学年が下の学年に踊りを伝えていくことで、踊りへの意識の高まり、伝えることの大切さを実感できると思う。大人が熱い思いで伝統芸能に携わることで、子供たちも思いを強くする（教員）。

高齢化が進んでいき、自分たちもいつまで踊っていけるかわからない。踊りが奉納できなくなる可能性がある中で、子供たちが伝統芸能の伝承に一生懸命取り組んでくれていることを頼もしく思い、今後も伝承し続けてほしいという願いをもちながら指導にあたっている（伝承者）。